

川づくり 清瀬の会

会 誌 第 40 号

2023 年 9 月 発行

発行・編集者 会誌編集委員会



【子供たちの夏休み】

会が実施している川の清掃活動に、ボランティアで参加してくれた子供たち。

撮影：柳瀬ゴロー・大室雄介

目 次

金山調節池ビオトープの歴史・・・・・・・・金山調節池ワークショップ 世話人 今泉 安広	1
みどりの保全と河川構造（空堀川の植生管理作業）・・・宮澤とよ美	6
河川と自然シリーズ もう一度会いたい・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木紀代子	8
柳瀬川・空堀川に棲む魚の紹介 コイ・・・・・・・・・・・・・・・・荒幡 経夫	9
植栽地だより どうして!! カシノナガキクイムシ・・・・・・・・宮澤とよ美	10
A Love Letter to You・・・・・・・・市川 俊朗	12
2023 年清瀬の夏 ～取材や川づくり・清瀬の会活動から見えたもの～・・・柳瀬ゴロー (TOKY0854 パーソナリティ)	13
令和 5 年 4 月から 9 月までの活動報告・・・・・・・・荒幡 経夫	15
今後の主な行事予定・お知らせ・事務局だより・・・・・・・・荒幡 経夫	21

金山調節池ビオトープの歴史

金山調節池ワークショップ

世話人 今泉安広

1. はじめに

私が都区内の建設事務所から東京都北多摩北部建設事務所に赴任してきたのは1995年4月でした。金山調節池の造園工事も終わり、調節池として完成したのが1994年3月ですから、現在から考えると何かしらの因縁を感じなくもありません。赴任当時は、道路工事の現場で仕事をしていたから、金山調節池の存在自体も知らずにいました。11月になり、柳瀬川の工事を担当して初めて柳瀬川の現実を知ることになりました。



金山調節池竣工時の写真（1994.3）

その当時の河川改修工事は、用地取得などが終わったところを「つぎはぎ」のように施工していたようでした。私が担当した工事は、通称「赤ばっけ」の上流です。既に松柳橋前後の改修工事は完成していましたが、落差工とその上下流の自然石張護岸を造る工事でした。実際の工事は請負業者が実施するので、余程のことがない限り現場を眺めているのが仕事でした。むしろ、柳瀬川の未改修区間の方に関心がありました。都区内では失われていた「川らしい」流れが残されていたからです。わざわざ川幅を狭めて造る無機質な石張りの護岸には、「違和感」がありました。

金山緑地公園に沿って下っていた区間では、川幅も広く蛇行し、河原が続き、瀬と深みが交互に流れる典型的な自然の川が残されていました。公園側の河岸も一部はコンクリート法覆工で補修してあったが、ササに覆われており、上部にはエノキなどの河畔樹木が生育していました。右岸側は、住宅団地区間がブロック護岸化されていましたが、未改修の区間は竹林の河岸がありました。団地よりも下流の護岸は、**皿形丈夫な鋼矢板で崖線の下部を支えていました。鋼矢板護岸の下流端には、コンクリートの堰が残されていましたが、この堰は「台田の田んぼ」に水を引くための取水用の堰でしたが、そのころには現在の台田団地になっていました。**

工事の合間には、工事がされていない区間の川の形を見ながら、その形状がどのような「水理（流れの作用）」によって造られたのかを想像するのが楽しみでした。そして、その形のなかで、育っている植物や生息している水生動物に興味を引かれました。大学で学んだ

水理学の本を読みながらの「推理（すいり）」も中々面白いもので、改めて水理学の「復習（理論の再構成）」になりました。そこから、河川工学や生物学にも範囲を広げることにもなりました。私の人生での大きな方向転換となりました。

1995年度の1年間は、こうして過ぎていきました。この時期では、まだ金山調節池の実態については知りませんでした。1996年度の当初は、現場には工事が発注されていませんので、前年度の書類整理などの仕事をします。時間的には余裕のある時期です。そこで、柳瀬川を調べることにしました。仕事の合間を縫って、下流の下水処理場から上流の狭山湖までの調査をしました。川沿いの住民の話も聞き、川筋の現実（地形・水質・生態系等）も知ることになり、大変な勉強になりました。この調査によって得た貴重な事柄を、きちんとした報告書に整理し冊子にまとめたのが、『柳瀬川レポート』（1996.10）です。当時の柳瀬川の実態が、不十分ながらも分かるし、多くの写真が含まれています。そして、その後の「川との付き合い」の原点となりました。

この調査の過程で、金山調節池の現実に出会うことができました。既に、前年の洪水越流



調節池・上池から全体を望む

による土砂堆積地には多様な水生の植物が発芽し、活発な生育を始めていました。上記のレポートに収録されている写真や植生図では、1996年9月の植生はヤナギ類の幼木や水生植物（ガマ・サンカクイ・ミゾソバ・マツモなど）から構成された多様な植生が現れていました。

2. 金山調節池が計画された経緯

1) 改修工事以前の事情

1980年代になると、柳瀬川流域にも都市化の波が押し寄せて来ました。田畑が道路や住宅地が変わっていくと、大雨の時にはあちこちで道路冠水や住宅への浸水が発生するようになりました。河川や下水道の整備は、道路や建物とは異なり、下流から系統立てて構築していく性質の設備です。つまり、急激な都市化に排水（河川や下水道）設備が伴っていなかったわけです。

柳瀬川や空堀川も都市化以前のままでしたから、大雨の時にはあちこちで溢れていましたし、土手や簡易な護岸は破損していました。そうした箇所では、応急的にブロック護岸やコンクリート法覆工等で復旧していました。ですから、洪水の時には護岸が壊れて水害も発生していたようです。一方、平常時には、家庭からの雑排水や産業廃水などが河川に流されて、いわゆる「どぶ川」で、ゴミや泡（あぶく）が流れ悪臭が漂う「迷惑施設」となっていました。下水道施設が整うまでは、河川が「排水路」の役割も果たしていたわけでした。

しかし、都市化によって河川の周辺も住宅化されていきましたので、河川改修するための

用地取得は中々進めることができません。田畑であれば、雨水の大部分は田畑に浸透してしまい、外に流出する雨水は少ないのですが、道路や住宅地になると、5倍も8倍もの雨水が流出していきます。こうした雨水が道路や河川の付近で溢れていたのです。

河川を改修するためには、改修する区間での洪水量を決めなければなりません。最終的には海に流れていきますので、徒に河川を深くしても水は流れていきませんので、地形に合わせて河川の幅を拡幅する必要があります。また、当時は早く水を流すことが求められていましたので、河川は直線化されていました。こうした多くの要素を整合させなければなりませんので、改修計画には、道路のように個々の区間ごとでは計画できない事情があります。

2) 改修計画の策定

柳瀬川流域の河川改修計画自体は、1970年代には策定されており、当時の建設大臣から改修事業計画の認可もされていました。その改修事業計画では、既に金山調節池も「本郷調節池」として記載されています。しかし、実際に事業化するためには、都市計画事業として事業区間を定めて建設大臣の認可を受ける必要があります。

前項1)で述べたように、1980年代になると、頻繁に「水害」や「護岸破損」が発生し始めていました。柳瀬川下流の埼玉県内では内水氾濫も起きていましたが、下流域からの改修事業を待っておれない事態に至っていました。こうした事態の対応として採用されていたのが「調節池」の構築でした。洪水を一時的に調節池に貯留して、下流への負担を無くするという事です。下流の東川合流点から上流の北川合流点までの区間の都県協定を結んで、関越道から空堀川合流点区間の都市計画事業が始まりました。この第一歩が「金山調節池」の構築でした。現在柳瀬川や空堀川で進められている改修工事は、以上のような経緯を経ています。

さて、金山調節池の構築工事は、まず隣接する柳瀬川の改修工事が1990年度から開始されています。2か年で金山橋直下流までの工事が完成し、その後に金山調節池の堀込み工事が着手され、1994年3月には冒頭に述べたように、植栽工事や木道設置を含む造園工事も終わり、金山調節池が完成しました。

3. 金山調節池が完成したころの社会環境

1) 多自然型河川改修の提案

1980年代の日本社会は、高度経済成長期も終わった絶頂期でした。しかし、河川は都市化の陰となり、排水路化していた時期でした。その反動として市民は、「懐かしいふるさとの川」「身近な安らぎの川」「生きものに親しめる川」を求め始めていました。河川改修事業も曲がり角に来ていました。

河川管理者としての建設省の内部でも、河川改修工事に対する市民の反応に注視するようになっていました。その一つの試みが「多自然型河川改修」でした。コンクリートに固められた単純な景観や生き物の生息を感じられない改修工事への反省もあったと思いますが、実態は「自然風への改修」でした。コンクリート製の魚巢ブロックとか、護岸や護床に自然石を埋め込んだブロックといった「製品」が多く開発されていきました。しかし、そうしたブロックを施工した箇所では、営巢し産卵することは稀ですし、ましてや植生が生育していく

ことは無理でした。当時、私は岐阜県にあった建設省の「実験河川」研究施設を見学して来ました。トンボ池や実験河川でのワンドや水制の研究には随分と学ぶことができましたが、木曽川に合流する箇所での「多自然型ブロック」の見本施工例には疑問を感じました。

その後全国的に「多自然型河川改修工事」の試行が積み重ねられていき、様々な改善が行われていき、建設省も見直しや施工事例の評価も出しています。自然石や木材の使用を推奨したのも、この評価のひとつです。

金山調節池の実施設設計が行われた背景には、こうした河川改修の変化がありました。時代はバブル期でしたので、潤沢な予算もあったのではと推測しますが、1991年度の金山橋下流の河川改修は「自然石空張り護岸（多自然型に認定）」が採用されています。1994年度に完成した金山調節池の造園工事にも、木道（コンクリート製）、水際の石積（空積）、法面の植生（空積）、中の島造成、調節池周回路の植栽工など随所に、「多自然型」への配慮が残されています。



巨石を使用した自然風の護岸

2) 新河川法の制定

1997年に、河川法の大きな改正が行われています。新河川法の大きな改正点は、河川法の目的に、従来の利水・治水に「河川環境の整備と保全」を同等の目的として加えたことです。ふたつ目は、整備計画の策定に当たって「地方公共団体の長、地域住民の意見を聴くこと」とされたことです。三つ目は、「河川周辺の樹林帯を、河川管理施設として整備保全する措置をとる」とされたことです。

この3点の大きな改正は画期的なことでした。それぞれに私見を付け加えますと、「河川環境」とは、単に景観への配慮だけではなく、河川生態系との共存を図ることであり、洪水を流すことや水利権を優先することではなく、河川で動植物が現実には生育生息している環境を保全できるように整備しなければならない。

「河川の整備計画」は、地域のまちづくりと密接に関係しているので、自治体の長の意見を聴き、地域計画との調整を図ること、そして住民の生活圏での河川に対する意見や要望を活かすことの2点を「整備計画」の策定の要件としている。

「河川周辺の樹林帯」を河川管理施設として捉え直すこととは、治水にとっても大きな意味があります。最近の「水害」でも大量の流木が護岸を損壊し溢水したり、橋や堰の流出の



原因となっていますが、護岸の外側での「防備林」等の機能はますます重要になってきています。河川環境からも、動植物は周辺の樹林帯と一体のものとして整備保全する必要があります。

大量の水を貯留した調節池

新河川法の改正から 25 年も経っているのに、改正の趣旨が活かされているという実感は乏しいように思われます。最近の頻発する「水害」の直接的な原因から推測できることは、改正の基本となっている『理念』を補充する科学的な取り組みが不十分だということ、そして平常時での河川管理の積み重ねが圧倒的に足りないということです。

この 25 年間の柳瀬川や空堀川での実態は、現実の川に現れています。この現実こそが 25 年間の「証人」だと思います。

以上が前編で、金山調節池が完成するまでの経緯です。後編では、金山調節池ビオトープの性格、保全活動の枠組みなどについて報告する予定です。

みどりの保全と河川構造（空堀川の植生管理作業）

宮澤 とよ美

2022 年度空堀川治水工事（その 8）が終えて約 1 ケ月半の 6 月末に、北々建から電話があり、「草刈り業者が今年は速く作業に入ります、と言っています。なるべく早く残したい野草にマーキングしてください」とのこと。7 月に入って毎日猛暑、今年は初めて関わりのある皆様の立ち合いはなく、草刈りの様子を見てくださったのか心もとない。

河川内は水源から河口まで、流域の雨水流入など様々な要因で、簡単に外来種や園芸種が逸出して入り、空堀川独特の在来種を守るために、草刈り前に残したい草へのマーキングは、平成 11 年頃より毎年夏と秋の 2 回続けています。

例年草刈り前に、北々建維持係、東村山工事事務所立ち合いの上、草刈り請負業者と当会とで確認しながら、残さなくてはならない草にテープで印をつけます。

同じ業者さんが入札で数年続けば、残す野草も理解し、立ち合いで管理通路から河川内を眺めて、地図に落とし確認だけで在来種を残すことができました。

柳瀬川と空堀川の新合流点が、旧合流点より 500m 上流になるまで、水の流れが流路を形成しているように、左右の高水敷は低水護岸もなく、水際には独特のクサヨシ・イグサの仲間、ツルヨシ・ミゾソバ・カワジシャ・クコ・ヤナギ・等の草や低木、クワやエノキ等の自生木の根がしっかりと崩れを守



新合流工事前の空堀川下流



石とコンクリートの高水敷と護岸

り、高水敷には多種の野草が見られました。そして水際の草の中にはフナ・ドジョウ・タモロコ・ギバチ・カマツカ・ヌマチチブ等が見られ、アユ・オイカワの飛び跳ねる姿もあり、動・植物共に多様性の豊かな空堀川です。

異常気象の進む中で、豪雨に対応できる河川となるよう、人工的で強固な低水護岸が施工され、ブロックやコンクリートで固めた河床とヒートアイランドの元凶となる高水敷は、河川環境と景観を大きく

変えました。

平成 28 年度空堀川の下流から工事（その 1）が始まり、合流点のコンクリートと石でがっちりと固められたその上流の 1 区間およそ 100m は流水の衝撃の少ない直線のため、低水護岸は作らず、地層の見える護岸に「2m 中の砂寄せ」の計画が提示され、「砂は増水時流出します、石寄せを・・・」と提案書を出しましたが、計画通り着工。高水敷も覆土。その秋早々の台風による豪雨で、きれいに寄せ砂は流出して、再度地層が露出。早速そこにはツルヨシやヤナギ等

が自生。今日までの時を経て景観としてはどうでしょう、石田橋から下流を覗いて見てください。水と緑の調和した、生き物にも優しい景色が見られます。

工事（その2）からは上流に向かい約1区間が100m程、落差工も下流の階段式2基から、これまでにないスッテプール式が取り入れられ、勾配1:2の低水護岸の法面にコンクリートブロックを張り、1:10勾配の落差工の下流には3列の護床ブロックが敷かれます。その部分の高水敷には左右とも2つの穴があり、上に自然石がはめられた右写真のようなブロックが3列10cm程の間を取って設置されました。歩きにくく危険です。

残り40mの高水敷は自然に配慮というのでしょうか、覆土され、低水護岸には玉石が張られます。

右上のブロックは2020年の工事で3年経ても野草の姿はわずかです。右下の写真は、2022年度工事の高水敷ブロックです。大きな自然石の凸凹はなく、2つの深い穴とブロックの間には詰土がされとても歩きやすく配慮がされています。管理通路から覗くとすでにイネ科植物などみどりが見られます。

空堀川は東村山市内まではほぼ平らに流れますが、そこから柳瀬川旧合流点までの標高差は大きく、急な河床勾配から、河床の安定を図るため、大牟田橋から約2.4kmの間に10か所の落差工が設置され、水の流れによる浸食を和らげようとこれまでにない人工的な景観となりました。

さて、以上のようにコンクリートブロックの目立つ河川内を少しでも温暖化抑制、また誰もが癒される川として、小動物が住める場所として見た時に、オオブタクサなど外来種が多いのですが、少しでも本来の草を守りたく、草刈り前に残していただく草に、2日かかりでマーキングします。草刈り業者さんにとっても一様ではない高水敷は大変刈難いのでしょうか。結果から見ますと、3年前からその殆どが刈られ、多年草のチカラシバ・ジュズダマ、キンエノコロ・ムラサキエノコロ・ノカンゾウなど消えてしまい、マーキングの意味がなく残念です。流水のない川には特にみどりが重要かと思うのですが。

マーキングしたまま刈りとられた草



特に左岸はヨモギがわずか残されたのみです



2021年までの落差工の高水敷ブロック



2022年度落差工の凹凸のない高水敷

もう一度会いたい・・・

鈴木 紀代子

植物との出会いは一期一会だ。同じ野の花でも、咲く姿や色は違っている。その中でも忘れられない、もう一度会いたいとの思いがつよく残っているものが沢山ある。その中の1つ



アキノノゲシ

に「アキノノゲシ」の花がある。清瀬に住まいを映してから、近隣を散策していた時、背丈の高い草花があった。小花を沢山つけている。その花の色がクリーム色に黄土色を少し混ぜたようなパステル調の色だった。その美しさに言葉を失った。後で図鑑で調べて「アキノノゲシ」と知った。花の色は黄色、まれに白色や淡紫色があるということだ。散歩に出たのが午後で、その日の天候や、花を見る私の心のあり方の影響もあるのかと思った、あの時の花の色にもう一度会いたい。

上野の東京国立博物館の庭で見かけた「スイフヨウ」の花もその1つだ。花は午前中は白で、午後ピンクから赤に変わることから、酒に酔ってゆく様にたとえて「酔芙蓉」と名付けられたとか。その花に出会ったのは午後で、白・ピンク・赤の八重咲きの花のキレイさは抜群のように見受けられた。フヨウの花は白・ピンクの一重咲きで、一日花だという。薬用として利用され、中国原産で高貴な花として文人や画家に愛されたとか。日本では雪舟をはじめ、多くの画家が傑作を残しているという。また、着物の模様や陶磁器などにも描かれた花だという。多くの花に一重や八重咲きがあるのも、私は不思議におもえる。



スイフヨウ



リュウキンカ

あえてもう1つ忘れられないものをあげるなら、初夏に訪れた尾瀬ヶ原の小さな流れに沿って咲く「水芭蕉」の花に混じって咲く「リュウキンカ」の黄色の美しさ。はじめての尾瀬ヶ原だったので、特に思い出として残っている。

花はどの花を見ても素敵である。我々人間は「美」を追求し、新しい色、花を造り出している。花屋さんの店先にビックリするような色合いの花があるので、店の人に聞いてみると、切花の水に色素を入れるのだとか。そこまでやるのだなあとおどろきを覚えたことがあった。

植物は草花にかぎらず、樹やツタ類、コケ類、キノコ類も、多々美しさに溢れている。私は幸せにつつまれて、生かされていることを感じながら日々暮らしを送っている。ちなみに花の色の四大色素は「カロテノイド・フラボノイド・ベタレイン・クロロフィル」で、それぞれの色素の量や、紫外線などの太陽光の量によって色が変わるということだ。

柳瀬川・空堀川に棲む魚の紹介

荒幡 経夫

コイ



コイ目コイ科に分類され、全国に分布するほとんどが、大陸からの移入種であることが近年明らかにされました。古来から日本に棲むコイは、体高の低いノゴイと呼ばれ、琵琶湖を中心に近くの河川に生息しています。DNA の解析により異なる種類であることが解かりました。コイが縄文時代の化石から発掘されることから、それ以前に大陸から移入されたのだらうと考えられています。

生息域は、河川の流れの緩やかな所・池・湖沼、きれいな水域・汚れた所どこにでも棲むことができます。

上唇の口元に2対のヒゲがあります。鱗が大きくて硬く、体色は黒褐色が主流で、緑っぽい色が混ざったり、白っぽくなったり、環境の変化で色を変えています。

産卵は、春から初夏にかけて水草や草の根元などに産卵し、一週間ほどでふ化します。仔魚は、動物プランクトンや付着生物を食べ、成長に合わせてさまざまな物を食べて成長していきます。1年で10 cm、2年で20 cm、3年で30 cm、60 cm以上の大きなサイズになるには10年以上過ぎているかもしれません。柳瀬川でも写真のような稚魚が採集されているので、間違いなく繁殖しています。

動物たんぱく質の乏しい内陸部では、貴重な食糧源として各家庭で飼育されたり、養殖されたりして食されていました。

水温の大きな変動や、水質の悪い所などでの、様々な環境変化に対する順応性が強く、水生生物・昆虫類・小動物・貝類・穀類・植物等なんでも食べることができるので、地域の環境を破壊する外来種としての認識が強くなっています。

植栽地便り

どうして!! カシノナガキクイムシ

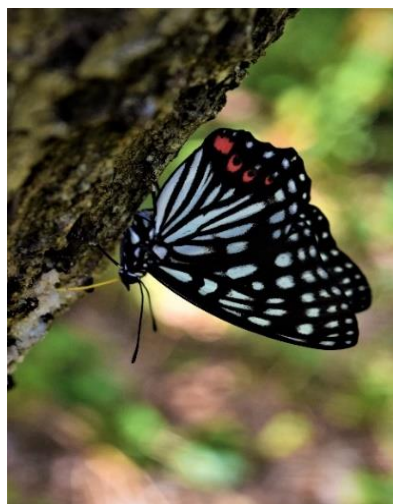
宮澤 とよ美

7月22日（土）川まつりの帰り植栽地の倉庫に寄る。柵を開けると何か嫌な雰囲気を感じ、目を凝らすと、スズメバチが数匹飛び回り、不快なおいが漂う。まさか！まさか！ナラ枯れ？



意識が薄れてゆくような猛暑の続く昨今、環境に絶対などという言葉はないのかもしれない、しかし植栽して12年目のクヌギにカシノナガキクイムシが取り付こうなんて、第一このキクイムシに関する資料には「幹が太く年を経た樹を好む」と書いてあるではないですか。

昨年の今頃は、清瀬市の萌芽更新をしない林は軒並み襲われました。今年はコロナ同様被害も落ち着くのではと期待をしましたが、そうはいかず枯れ木が

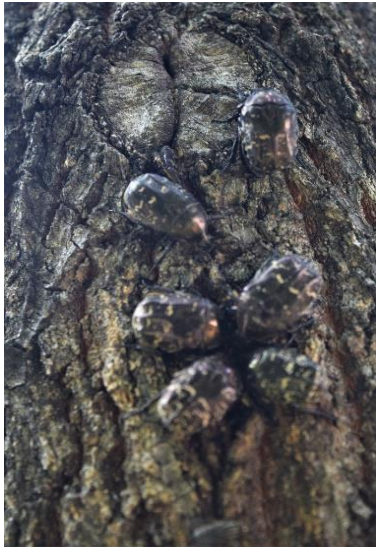


目に付くようになりました。早速林の奥に入ってみますと、空堀川の管理通路に沿ったクヌギに多く見られます。どれもが樹木の根方に黒い樹液を流しています。そこにカナブン・ハナムグリ・スズメバチそして数mmの小さな舞い虫が群れています。きっとこのエノキから生まれたアカボシゴマダラでしょうか、数本の樹の地面すれすれに、白いカビのような所から同じ姿で樹液を吸っています。被害木はその日7本程でしたが改めて数えると17本になっています。

5mmそこそこの小さな虫が、どうして同一行動ができるのかとても不思議です。



PCを検索しますと、東京大学大学院農学生命科学研究科の鎌田直人氏の掲載文“カシノナガキクイムシの生態解明とナラ枯れ防除に向けて”を拝読、「◆カシナガの雌の成虫は胞子を貯蔵する特別の器官をもっていて、菌の胞子を自分が育った木から新しい木へ運ぶことによって伝染させる……。◆小スケールの移動分散には、光環境の他にも、寄主



木の臭い成分や、雄が交尾前に出す木くずに含まれる臭い成分が関係していることが知られています。とくに交尾前の雄が出す木くずには、♂♀両方の成虫を誘引する集合フェロモンが含まれており……。◆ほかに、ナラ菌によって辺材部にできる壊死変色部に蓄積するエラグ酸やガロ酸が、カシナガ成虫の穿孔を阻害することもわかりました。もしかしたら、環境に優しい防除法が開発されるヒントになるかもしれません。」（一部を抜粋させていただきました）

難解ではございますが、カシノナガキクイムシが仲間を誘因する能力を、ナラ枯れの原因である「ナラ菌」との係わり、そして被害木もまた報われないまでも、カシノナガキクイムシの成虫が穿孔しようとするのを阻害する働きが

あるとのこと、動植物に係わらず、種を守るために連携をすることをTVで見おどろきました。「若木がナラ枯れに襲われた時、回復する力があるので様子を見よう」という考えを伺うと、確かに根元には黒い樹液が溜まり多種の虫も集まりますが、大木がナラ枯れに襲われながらも青い葉をつけた痛々しい姿を見るにつけ、若木の力強さで是非生き残ってほしい“頑張れ”と祈ります。



5月16日、植栽地にイイギリを植えました（ヤナギ科イイギリ属）

イイギリ（飯桐 落葉高木 樹高約20m）下宿の坂間利司氏から4年ほど前に一度戴きましたが根付きませんでした。この度再度しっかりとした苗木を戴きました。地主さんのご同意を戴き、木村さんに手伝って植えて戴きました。樹高約2mです。

イイギリは本州・四国・九州の山地に自生とのこと。写真のように節々から輪生状に横枝を伸ばし、葉は互生で、卵円形。成木になると秋にはブドウの房のように真っ赤な実をたわわにぶら下げ見事です。但し、この木は銀杏のように雌雄異株ですので成木になっても雄木ですと大きな葉ばかりで面白くありません。清瀬の近辺でイイギリの年数を経て、見事な果実が見られるのは、東京病院やベトレヘム病院、それから東村山の全生園等に見られます。

植栽して間なしのイイギリですが、是非雌木でありますように。見事な果実をつけて散策の皆さまを楽しませてほしいと思います。



A Love Letter to You

市川 俊朗

いつもお元気でご活躍ご苦労様です。 さて、昨年会報に原稿をとのお誘いをいただきました。決して忘れていたわけではありません、事実、もう 50 年も前、英国に留学してはじめて住んだロンドン郊外のストレッタムヒルのミセスピアーズの下宿、私の部屋は教会の真向かい、日曜日には鐘の音がすごかったこと、近所のストレッタムコモンという公園、そこでの初めて出会った黒人少年との思い出…

でも思ったのです。この歳になって今さらえらそうにそんなこと書いても、ちっともかっこよくない。それより…

ちょうどその時、15 年前私が清瀬国際交流会会長だったとき創った「清瀬でも英語しゃべらん会」の三度目になる代表をやってほしいという話が来ました。もう 80 になろうとする私は、当初全くやる気がありませんで、断りつけました。でも、思い出したのです。皆様のがんばっている姿を。そうだ。このしゃべらん会代表をもう一度がんばることで、原稿のお誘いにおこたえさせていただいたことにしようと決めました。



小生、先月からがんばっています。ここ数年、無意識に、異常に英語シフトの生活をして（いつもの仕事に生活の件ですが）きていて、英語絶好調ですので、むしろ大いに楽しんでやっています。11 月 12 日（日）午後 2 時アミューホールでの「しゃべらん会」に向けて準備中です。ご興味のおありの方どうぞお出かけください。大変ありがとうございました。

I Love inspired me! です。

ますますお元気でご活躍されますよう。

2023 年清瀬の夏

～取材や川づくり・清瀬の会活動から見たもの～

柳瀬ゴロー（TOKY0854 パーソナリティ）

この3年間、コロナ禍の中、軒並み清瀬市内の行事はほとんど行われず、これは清瀬だけに限った話ではありませんが、何処か閉塞感と停滞感が漂っていました。我々大人たちは「仕方ない」と、ひたすらコロナが落ち着いてくれることを願って過ごしておりましたが、子どもたちはかなり窮屈で、我慢を強いられていたと思います。でも、そんな中、夏休み期間中、きよせボランティア・市民活動センター協力「夏の体験ボランティア～やなせ川のおそうじ・魚とり」や下宿地域市民センター主催の「柳瀬川の生き物と触れ合おう」が、感染対策万全に開催され、事故が起こらなかったことは喜ばしいことでした。我々、川づくり・清瀬の会も全面的にお手伝いをしましたが、やはり子どもたちが自然の中でのびのびと過ごし、魚や水生生物に目を輝かせる姿を見ることができるのは、嬉しいことです。以前、坂田篤教育長に「清瀬ならではの自然を、子どもたちしっかり楽しみ、学んでいますね」とお話ししたところ、大変喜んでおられました。

さて、2023 年の「清瀬の夏」を振り返りましょう。7月22日（土）4年ぶりに「きよせの環境・川まつり」が開催され、こちら4年ぶりですが「きよせひまわりフェスティバル」が開幕しました。「きよせの環境・川まつり」と「きよせひまわりフェスティバル」が同日に行われるということで、正直環境・川まつりの客足が心配されましたが、その心配はすぐ払拭され、お子さんを中心に大勢の人々が訪れました。川づくり・清瀬の会テントも常に賑わっており、子どもたちは水槽展示された柳瀬川に棲む魚や水生生物に見入っていました。



「子どもたち待っていたのだなあ」

ある、環境・川まつり実行委員の方がぼそっと仰っていましたが、いくらゲームや You-Tube が流行ろうとも、自然に親しむ、自然の中で遊ぶというのは、子どもたちにとってかけがいのないことで、その目の輝きは我々の子ども時代とまったく変わらないのです。

7月16日（日）日枝神社社殿前、全龍寺境内・本堂前などで、「清戸の獅子舞」が開催されました。戦国期八王子城主で滝の城を支城とした北条氏照が武運長久を祈願し奉納したことが始まりと伝えられていますが、その後中清戸で五穀豊穰・厄除けのお祭りになったと言われています。「清戸の獅子舞」にも大勢の人々が集まり、力強い舞や練り歩きを、かたずをのんで見守っていました。ここにも子どもたちの

姿がありました。

7月23日（日）は清瀬駅北口むつみ会主催「けやきロードフェスティバル」が開催されました。「きよせひまわりフェスティバル」も開催中とあり、すさまじい数の人々が清瀬駅北口を埋め尽くしました。ここにも大勢の子どもたちの姿がありました。

7月22日から30日まで開催された「きよせひまわりフェスティバル」、36,000人以上の方が足を運びました。開催時期が8月から7月に変わり、清瀬市農ある風景を守る会松村新一会長も大変ご苦労されたとお聞きしましたが、無事開花し、大勢の皆さんを楽しませました。ラジオの取材で二度私も足を運びましたが、外国人の方多かったですね。ドイツ人留学生は「ドイツでは見ることができない風景」と驚愕し、ベトナム人の方も「ベトナムでもひまわりは咲いているけど、こんな風景はない」と驚いていました。そしてここにも子どもたち大勢来ていて、10万本のひまわりの姿に驚き、楽しんでおりました。

この夏休み期間中も、8月6日（日）下宿地域市民センター主催「柳瀬川の生き物と触れ合おう」8月19日（土）きよせボランティア・市民活動センター協力「夏の体験ボランティア～やなせ川のおそうじ・魚とり」が開催され、どちらも川づくり・清瀬の会が全面協力をしました。毎年数分以内に予約が埋まってしまう大盛況ぶりですが、今年も大人気で、大勢の親子連れが参加しました。子どもたちは海洋プラスチックゴミに対する関心も高く、掃除もかなり熱心に取り組んでおりました。

その他清瀬市内では、銀座商店街や清富士会、旭が丘団地、グリーンタウン清戸などで盆踊り大会や夏祭りが開催され、花のある公園では「夕涼み」、清瀬市役所でも「サマーフードフェスティバル」が開催されました。どの会場でも主役は「子どもたち」でした。



清瀬の次世代を担う子どもたちが、清瀬の自然を愛し、清瀬の伝統や文化を楽しみながら学んでくれることが頼もしく、未来の清瀬に期待が持てるそんな「2023年清瀬の夏」でした。現在川づくり・清瀬の会にも西山祥恵さん（清瀬第四小学校3年生）が会員として参加し、中村円乃さん（清瀬第八小学校3年生）、大室吉平さん（清明小学校3年生）、中村茉和さん（保育園）が定期的に会の活動に参加し、さらに毎回の清掃活動に清瀬市や隣接する新座市などから多くの小学生が参加しております。清掃や観察会など川づくり・清瀬の会活動で学んだことをぜひ将来に生かしてほしいと願っております。年齢が上がればオシャレなど、違う方向に目が向きがち（私も人のことは言えません）になりますが、いつまでも清瀬を愛してほしいと思います。

◆令和5年4月から9月までの活動記録◆

【令和5年4月の活動事項】

14日：幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

15日：総会開催：田島・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者は、会員の星野輝子さん・小西美香さん・菅原英郎さん・渡辺しのぶさん・藤岡純さん。そして当日入会の佐野純資さんが参加し、議案が認められ終了する。

【5月の活動事項】

12日：幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・城野・荒幡

21日：植栽地管理：田島・戸塚・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員：高橋さん・星野玲子さん・中村さんご家族・西山さん親子・大室さん親子・菅原さん・木村さん。

10m 位のクヌギとエゴノキ2本を伐採し、ヤブジラミを中心に下草刈りを実施する。



倒したクヌギ



子供も参加



少しすっきりとした林

21日：水質検査準備作業：宮澤・荒幡

野塩市民センターで、全国一斉水質調査の試薬の仕分け作業を宮澤が手伝い、荒幡が引き取りに行った。

25日：環境川まつり実行委員会出席：柏崎

7/22日に参加する川まつりで、川での自然観察会を担当することが決まる。
次回委員会は、6/22と7/4、10:00から。

28日：柳瀬川河川清掃：戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・城野・荒幡

参加者：会員は、星野玲子さん、西山さん親子、高橋さん、佐野さん、中村さ

ん親子、大室さん親子。市から2名。一般から14名
 市内一斉清掃に合わせて、今回は金山橋下流から台田運動公園前までの清掃を実施する。あわせて、バーベキューをやりに来ている人たちに、ゴミを持ち帰るよう伝えるために制作したチラシを配った。会の活動を応援して頂いているみゆき食堂さんからペットボトルのお茶を、タイニーメイさんからカレーライスを提供して頂いた。他にも、モーリーマーケットさん・みんなのタコ公園さん・カタクリ整骨院さんから参加者へプレゼントを頂いた。
 回収したゴミの総量は730Lでした。



ペットボトル 90L (12%)



缶類 30L (4%)



ビニール類 160L (22%)



トレイ類 80L (11%)



工事ゴミ 100L (14%)



その他 270L (37%)

29日：清瀬第四小学校で講演：荒幡

学校からの依頼を受けて、4年生の総合学習として柳瀬川と空堀川について、川の紹介・生物の紹介・生態系の脅威について講演した。

【6月の活動事項】

3日：金山緑地と金山調節池&柳瀬川回廊見学会の案内：荒幡

東久留米・黒目川流域水の会が主催する見学会の案内をする。
 参加者は12名。

4日：全国一斉水質調査に参加：戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・城野・荒幡

柳瀬川・空堀川の12カ所を3班に分け水質調査・環境調査を実施する。

A班：前原橋・梅坂橋・新合流点・清瀬橋

宮澤・柏崎・船木・小西美香・原・目黒・星野玲子。

B 班：金山橋・金山調節池・日向橋・新柳瀬橋

木村・斎藤・藤岡・菅原・中村親子（お子さん 2 名）・友野。

C 班：城前橋・清柳橋・水処理再生センター前・水処理再生センター下流

新井・荒幡・丸松産業 2 名・城野。

別班：戸塚・加瀬・星野輝子。

7 日：空堀川の河川清掃実施：吉田（会員）

9 日：幹事会：田島・加瀬・斎藤・新井・船木・荒幡

22 日：環境川まつり実行委員会出席：柏崎

7/22 日に参加する川まつりで担当する川での自然観察会の詳細を決める

25 日：空堀川河川清掃：田島・宮澤・加瀬・柏崎・船木・城野・荒幡

参加者：会員は、星野輝子さん・玲子さん、菅原さん、高橋さん、古谷さん、友野さん、佐々木さん、中村和輝さん、中村さんご一家、大室さん親子。一般から 2 家族含み合計 8 名

今回は、中里地域市民センター前から上流新合流点までの清掃を実施した。

集めたゴミの総量は約 550L でした。



ペットボトル 40L (7%)



缶類 20L (4%)



ビニール類 160L (29%)



トレイ類 40L (7%)



工事ゴミ 130L (24%)



その他 160L (29%)

28 日：清瀬第四小学校学習協力：田島・柏崎・新井・船木・荒幡

会員参加者：友野さん・大室さん・熊谷さん。

学校からの依頼を受けて、4年生の総合学習として空堀川の清掃と生物採集を実施し、生物の観察を行った。

【7月の活動事項】

4日：環境川まつり実行委員会出席：船木

7/22日に参加する川まつりで、川での自然観察会の詳細や、全体のスケジュールについて決める

14日：幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

21日：柳瀬川河川清掃：田島・柏崎・新井・荒幡

22日の「環境・川まつり」の事前準備として、河川の安全確認と川の清掃を実施する。参加者：会員は、星野玲子さん・大室さん、「環境・川まつり」実行委員会から6名。

22日：「環境・川まつり」に参加：田島・戸塚・宮澤・斎藤・柏崎・新井・荒幡

4年ぶりに開催された「環境・川まつり」に参加する。水槽に生物を展示し、河川の汚染やゴミ問題をテーマにしたパネルを掲示する。イベントは、ガサガサ体験を実施した。展示生物：アユ・オイカワ・カワムツ・ヌマチチブ・カワヨシノボリ・ウキゴリ・スミウキゴリ・シマドジョウ・ドジョウ・スジエビ・カワリヌマエビの仲間・アメリカザリガニ・ヤゴの仲間（コオニヤンマ・コヤマトンボ・ハグロトンボ）・ヒゲナガカワトビケラ・シロタニガワカゲロウ・スッポン。



【8月の活動事項】

4日： 幹事会：田島・宮澤・柏崎・新井・荒幡

6日： 下宿の川体験：田島・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員は、星野玲子さん、大室さん親子、中村さんご家族、西山さん親子。
下宿地域市民センターが主催する柳瀬川の清掃と生物解説に協力する。イベント参加者は、小学生と保護者合わせて20数名。

回収したゴミは、約150L。採集した生物は、オイカワ・カワムツ・カマツカ・ウキゴリ・スミウキゴリ・ヌマチチブ・ドジョウ・シマドジョウ・コイ・アメリカザリガニ・シマエビ・カワリヌマエビの仲間・ヤゴの仲間（コオニヤンマ・コヤマトンボ・ハグロトンボ）・ヒゲナガカワトビケラ・シロタニガワカゲロウ。



19日： 夏のボランティア体験実施：田島・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員は星野玲子さん、中村さんご家族、大草さん、協力して頂いたきよせボランティア・市民活動センターから、職員4名、学生2名。

清掃と生物採集の体験参加者は、小学生と保護者合わせて47名。

回収したゴミは約180L。

採集した生物は、オイカワ・カワムツ・カマツカ・カワヨシノボリ・ウキゴリ・スミウキゴリ・ヌマチチブ・ドジョウ・シマドジョウ・マハゼ・アメリカザリガニ・モクズガニ・シマエビ・カワリヌマエビの仲間・ヤゴの仲間（コオニヤンマ・コヤマトンボ・ハグロトンボ・シオカラトンボ）・ヒゲナガカワトビケラ・シロタニガワカゲロウ。



【9月の活動事項】

3 日 : 空堀川清掃：田島・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員は菅原さん・古谷さん・中村和輝さん・西山さん親子。一般からは 3 名。清瀬橋から新合流点の間を清掃し、合流点付近の木の剪定も実施した。
集めたゴミの総量は約 520L だった。



ペットボトル類 90L (17%)



缶類 20L (4%)



ビニール類 50L (10%)



トレイ類 50L (10%)



工事類 40L (7%)



その他 270L (52%)

10 日 : 幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡

17 日 : 生き物観察会：田島・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

会が主催して空堀川の清掃と、生物の採集・観察会を実施した。

参加者：会員の星野輝子さん・玲子さん、熊谷さん、中村さんご家族、大室さんご家族。一般参加は 1 家族。 回収したゴミは約 200L。

採集した生物は、オイカワ・ウキゴリ・カワヨシノボリ・ドジョウ・カワリヌマエビ・アメリカザリガニ・シマイシビル・アメンボウ。(数日前に大雨が降る)



清掃している所



生物採集している所



水槽に入れて観察

◆今後の主な行事予定◆

- ・10月1日（日）：植栽地管理（三郷橋そば）9:00 集合
- ・10月17日（火）：金山緑地公園池の外来種駆除（金山緑地公園） 9:00 集合
- ・11月5日（日）：市内一斉清掃・柳瀬川河川清掃（台田運動公園） 9:00 集合
- ・11月26日（日）：空堀川河川清掃（梅坂橋広場） 9:30 集合

◆ご案内◆

川づくり・清瀬の会活動の様子、予定など、公式 Facebook ページや公式 X(Twitter)でお知らせをしております。ぜひご覧ください。お持ちのスマホをカメラにさせていただき、かざせば読み込みます。パソコンお使いの場合は「川づくり・清瀬の会 Facebook」「川づくり・清瀬の会公式 Twitter」で検索してください。

活動予定につきましては、コミュニティ FM 放送局 TOKYO854 くるめら (85.4MHz) 『ゆったり清瀬』（毎週月曜日 12:00-12:55 再放送毎週火曜日 06:00-06:55）でも告知しております。



公式 Facebook ページ QR コード



公式 X(Twitter) QR コード

◆事務局だより◆

5年間続けられてきた空堀川（柳原橋～石田橋）の 50 mm対応工事が今年度で終了予定です。冬から予定されている梅坂橋付近の工事では、バープ工が施行され生物に棲みやすい環境づくりが進められます。時間はかかりますが、昔のような多自然豊かな川に育てていきたいと考えています。

これからも手洗い・状況によるマスクの仕様、消毒などの感染予防を実施しながら、活動を進めていく考えでいます。

今後も、会員の皆様の増々のご支援と、ご協力をよろしくお願いいたします。

【訃 報】

東村山市にお住いの会員小林寛治様が 5 月にご逝去されました。空堀川に関する著書を多数寄贈して頂きました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

川づくり・清瀬の会

TEL : 042-493-7864 事務局：荒幡経夫